

地域実践研究成果の紹介

静岡県における居住地校交流の推進に関する研究

特徴

交流及び共同学習の充実をサポートするために作成されたチェックリストを活用し、居住地校交流を実施する通常の学級担任の意識の変容と実施に当たっての要点に焦点を当て、特別支援学校と小・中学校が協同して交流及び共同学習を推進していくための具体的な方法を探った研究です。

活用していただきたい方

- ・ 特別支援学校の先生
- ・ 小・中学校の通常の学級担任の先生

研究成果の活用

表1 交流及び共同学習についてのチェックリスト(一部抜粋)

【Ⅰ 各項目の実施状況について】

先生ご自身の交流及び共同学習の経験において、各項目の実施状況として、あてはまる数字に○をつけてください。なお、本調査における「障害のある子ども」とは、交流及び共同学習を実施する際の特別支援学校（級）在籍の児童生徒を指しています。

実施して
いません
0

実施しているが、
うまくいっていない
1

あまりうまく
いっていない
2

どちらとも
いえない
3

まあまあうまく
いっている
4

実施していて、充分
うまくいっている
5

Ⅰ 事前準備		実施状況				
①	特別支援学校（級）担任と、事前に打ち合わせを行い、必要な情報を共有している。	0	1	2	3	4 5
②	障害のある子ども本人、保護者（家族）の思いや願いを知り、反映させる工夫をしている。	0	1	2	3	4 5
③	学級の子どもたちが障害のある子どもについて理解できるよう工夫している。 （その子どもの好きなこと、苦手なこと、コミュニケーションの方法、必要な支援や協力の仕方を事前に伝える、等）	0	1	2	3	4 5
④	障害のある子どもが、学級に帰属意識をもてるよう工夫している。 （靴箱・机・ロッカー等を用意、名簿や掲示物に氏名記載、等）	0	1	2	3	4 5
Ⅱ 目標設定の工夫と学習活動の変更調整						
①	障害のある子どもと学級の子どもそれぞれの実態に応じて、交流及び共同学習の目標や教科領域の目標を設定し、目標に向かって取り組んでいる。	0	1	2	3	4 5
②	障害のある子どもが学習に取り組みやすいよう、活動の設定を工夫している。 （参加する場面の設定、授業・学習活動の内容や方法の変更調整、等）	0	1	2	3	4 5
Ⅲ 子どもの積極的参加のための活動の工夫						
①	障害のある子どもと学級の子どもたちが、相互に協力しながら取り組めるよう工夫している。（ペア学習、グループ学習、等）	0	1	2	3	4 5
②	障害のある子どもの実態に適した補助的教材や教具等を工夫している。	0	1	2	3	4 5
③	障害のある子どもと学級の子どもたちも理解しやすいように、情報を様々な方法で提示している。	0	1	2	3	4 5
④	障害のある子どもと学級の子どもたちも、活動の中で自分に合ったやり方を考えたり選択したりできるよう工夫している。	0	1	2	3	4 5
⑤	障害のある子どもと学級の子どもたちも自分の思いを表現できるよう、発表や表現の場を設けている。	0	1	2	3	4 5

このチェックリストは、主に小・中学校の通常の学級の先生を対象に作成されています。

このチェックリストは、主に小・中学校の通常の学級の先生を対象に作成されています。

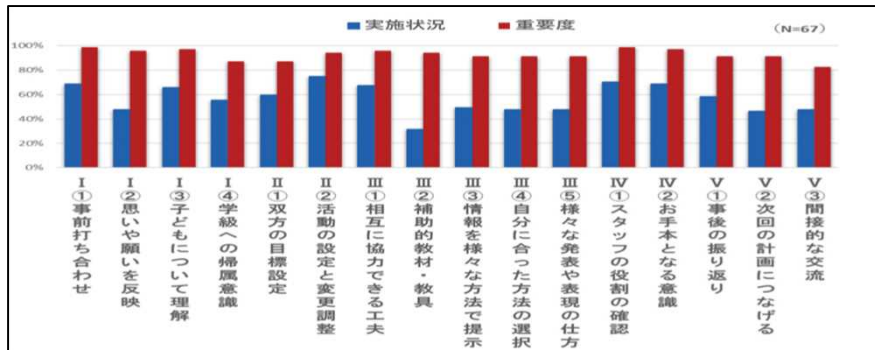
交流及び共同学習の準備から当日の実施、事後の学習や評価といった、時間的な流れやまとまりを考慮し、5領域18項目で設定されています。



研究の内容と主な成果

この研究では、居住地交流の意義を踏まえた実践ができるように、チェックリストを活用して小・中学校の学級担任の意識調査、事前打合せの充実による、学級担任の意識の変容、居住地校交流の好事例の整理を行っています。

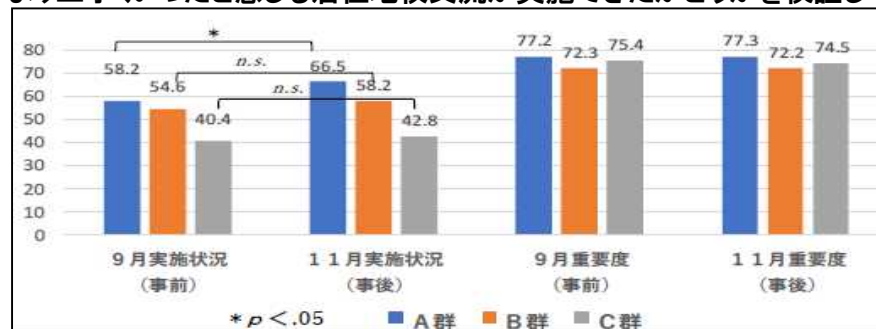
＜研究1＞では、居住地校交流を実施する小・中学校の学級担任がどのようなことを重要と考えているのか、また、実施が難しいと思っているのかを把握しています。



通常の学級担任は、交流及び共同学習に関して高い意識を持っているが、満足のいく実践が行われていない現状が明らかになっています。

図1 実施状況において「十分うまくいっている」「まあまあうまくいっている」、重要度において「とても重要である」「まあまあ重要である」と回答したものの比較

＜研究2＞では、事前打合せを充実させることにより、居住地校交流を実施する小・中学校の学級担任が、より上手くいったと感じる居住地校交流が実施できたかどうかを検証しています。



チェックリストを活用して事前打合せをおこなったことで(A群)、居住地校交流の実施状況(十分にうまくいっている、まあまあうまくいっている)の数値が上昇しています。

図2 チェックリストを活用して事前打合せを実施したA群の変化

＜研究3＞では、居住地校交流の具体的な実践事例を、チェックリストの各項目を整理することで、特別支援学校との交流及び共同学習の「好事例」を具体的に示しています。

インクルーシブ教育システム構築との関連性

1. 体制整備 : (1-1)園内・校内の支援に係る体制整備
5. 交流及び共同学習 : (1-1)交流及び共同学習の実施のための具体的な取組
(1-2)障害のある人との交流と理解啓発

*インクルーシブ教育システム構築の観点は、国立特別支援教育総合研究所横断的研究「我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究」で検討したインクルCOMPASSの観点を規準にしています。

詳しい内容は
報告書
をご覧下さい

地域実践研究 交流及び共同学習の推進に関する研究 報告書

静岡県における居住地校交流の推進に関する研究（静岡県）
P.150～185

https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/specialized_research